

## 雑司が谷旧宣教師館だより

第12号  
1999年8月25日発行豊島区立雑司が谷旧宣教師館  
〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎FAX(03)3985-4081

雑司が谷旧宣教師館で遊ぶ-Part V-

## 「ブルーベリーを摘んでみよう！」大盛況に終わる

(1999.7.16(金)～8.1(日)実施)

旧宣教師館の庭には、現在大小約30本のブルーベリーの木があります。90年前、マクレーブは敷地の中に畑を作り、自給自足の生活をしていました。マクレーブが植えていたのはグースベリーで、今は庭に1本あるだけで、実りの時期になると近所の子供達に摘んで食べさせてくれたそうです。

開館後に整備した庭の植栽も10年を経過して建物を一層引き立て、ブルーベリーは日によっては1kgも収穫できるようになりました。

ブルーベリーはグースベリーと違って刺がありません。子供も遠く収穫の楽しさを味わい、ここで思いきり遊んで貰いたいと、「雑司が谷旧宣教師館で遊ぶ」を4年前から始めています。

ブルーベリー摘みの体験と、庭の草木を煮出して草木染めや、手軽に出来る勾玉作り等、夏休みの一日を地域で目一杯遊んで貰うというものです。

ところが昨年、「大人だってブルーベリーを摘んでみたい！」との声が寄せられました。「ブルーベリーが実るのを是非みたい。夏にまた来ます。」という来館者が実に多いのです。そこで今年は「ブルーベリーを摘んでみよう」と広報としま(7/15日号)で呼びかけました。

年	0	10	20	30	40	50	60	70	合計
代	9	代	代	代	代	代	代	代	
人数	8	1	3	11	3	1	8	4	39
	人	人	人	人	人	人	人	人	人

1日2組×10日間で合計20組に対し、118人の応募があり、電話での先着順受付としたため電話が繋がらないという苦情が寄せられました。来年以降は受付方法等検討いたします。補欠を含め25組受けつけ、延べ39名の方が参加されました。

## ◆参加された方々のアンケートを紹介します◆

- ◎大都会の中のささやかな「野積み」の感じがあるので植えるものを順次取り換え、これに類する催しが出来ればと思う。(男、70代、千川、2回目)
  - ◎ブルーベリーを選びながら摘んで楽しかった。(女、20代、池袋、初来館)
  - ◎子どもの頬を思い出し楽しかった。(女、50代、東長崎、初来館)
  - ◎都心のある身近な場所でブルーベリーが摘めるとは思ってもありませんでした。子どもの体験学習としてもよい企画だと思いました。(男、30代、目白、初来館)
- 今後とも地域の人々に関心をもってもらえるものを行っていきたくと考えております。



## 『雑司が谷界限』発足

去る7月11日(日)、「雑司が谷を愛する人々の集い」第1回が、ここ雑司が谷旧宣教師館で行なわれました。雑司が谷のご出身で『中央公論』や『東京人』の編集長を歴任された柏谷一希氏の基調講演「雑司が谷文化について」に続いて、雑司が谷に対する意識を高めていこうという共通の熱い思いが参加者一人一人から語られました。集いの名称は「雑司が谷界限」と決まりました。

第1回目の様子が、『雑司が谷文化を語る』という冊子になりました。当館事務棟2階にあります。ご覧になりたい方は事務室までお越しください。

..... ウィリアム・ファックス氏親子来館 .....  
.....

8月12日(木)午後、ウィリアム・ファックス氏は父親である宣教師ハーマン・ファックスの日本における足跡を辿る旅で、父の旧友の一人マッカーレブのかつての住まいを尋ねて来られた。宣教師ハーマンは、1896年ケンタッキー州ジェファーソン郡で生まれ、1919年双子の兄ハリー・ファックスと共に来日し、マッカーレブの紹介で茨城県北部の常陸大子町で伝道活動を行ないました。

ウィリアム氏は大子で生まれ、1941年11月、太平洋戦争勃発直前に16歳で家族と共に帰国し、今回がそれ以後の初めての来日だそうです。

ウィリアム氏は、43歳になる息子のビル氏に祖父の辿った道を自らの案内で見せたかったとおっしゃいました。本館を回る時も、随所々に思い出があるようで、立ち止まってはビル氏に説明されました。

展示の古い写真の前で、「この人はよく知っています。」とアンドリュース嬢の写真を懐かしそうに眺めていらっしゃいました。

ビル氏にとって今回の旅は、先祖の歩んだ道を感じ深く追体験するに止まらず、新たな興味と探究心が湧いてきた様子でした。

本館にとっても、マッカーレブと関わりのある人々が高齢となり、当時の状況を少しでも知る人の存在は貴重です。ビル氏が宣教師ハーマン・ファックスについて調べられる途上、マッカーレブに関することがあったらご連絡していただけたら幸いです。



ウィリアム・ファックス氏親子は、茨城県の大子群馬県の上小坂、軽井沢そして雑司が谷と回りました。帰国後ビル氏は6人の子どもたちに日本での経験を語り継いでいることでしょう。

来館者の声

♡お庭の手入れがいりるので日陰で読書、居眠りをしてみたくなる。順路の案内がちょっと不足のような気がする。(40代、女、雑司が谷、広報としま初めて、7/20)

♡以前に何回か見学にと思い道に迷い、今回6回目にして見学させていただくことが出来ました。お庭で手入れされている方がとても感じの良い方でしたので、ホッといたしました。ありがとうございました。またご苦労様です。(50代、女、自

広報としま・知人から、初めて、8/13)

♡日頃は違った時間が過ごせました。アップライトピアノもやはり木の楽器ですから、建物同様今の時代に見て弾けて良かったと思いました。(20代、男、埼玉県、知人から、初めて、8/17)

※本館1Fマッカーレブの食生活コーナーには、大正時代に作られたピアノが近所の方の寄贈により展示してあります。

🌸 花ごよみ 🌸

猛暑が続いております。

花の少ない時期ですが、夏の花の代表ともいえるサルズベリ・ホウセンカ・サルビア・マリゴールド・アペリアが、強い日差しを浴び咲いています。

豊島区の宿泊施設「猪苗代四季の里」から昨年分けてもらった金鶏菊(キンケイギク)も根付き、Fさんも持ってきてくれたタスマンシロも咲き出しました。1氏寄贈のスズランとジャガのお蔭で来春の楽しみができました。ありがとうございます。

今回は、洋風の建物によく調和するアペリアについて紹介します。

「アペリア」

別名 ハナソノツク/ナツツギ

科名 スイカズラ科常緑広葉低木

花期 7月～11月

適地 日向・半日陰/東北南部以南

原産 中国



7月から霜の降りるころまで、長い期間にわたり淡桃白色の芳香のある小花が咲き続けます。花は釣鐘状で、先は5裂です。

この花は、大正の頃日本に渡ってきました。生垣に使われるようになったのは、東京オリンピックの頃からだそうです。

夕暮れ時に見る、曇々とした小花の集団が印象的です。是非訪れてください。(反日記)

【お知らせ】

平成11年度東京文化財ウィーク(11月3日～11月14日)期間中、当館に於いてガーテンコンサート(フルート演奏会)、区内の近代建築の見学会、文化講演会を実施予定。詳細は広報としま及び次号のたよりをご覧ください。

【編集後記】雑司が谷に住まい、雑司が谷を愛する人々が雑司が谷を語り継ぐ会を発定させました。第1回目は地域住民運動の賜物であるここでという声が上がります事務棟での開催でした。嬉しい事です。(文責浜地)